

のご祝辞がありました。業績功労者表彰の紹介ではノーベル賞受賞の島津製作所田中耕一氏、トヨタ豊田会長、オフコース小田和正氏などの著名人の報告があり、改めて東北大学出身者の人材の豊かさに感動した次第です。更に次の100年へ向けての井上総長の壮大な構造改革、青葉山キャンパス構想の紹介があり、基本理念である「研究第一主義」、「門戸開放」、「実学尊重」の力強い継承宣言をもって、大懇親会へと移りました。会場を広げての

大立食パーティであり、老いも若きも和気藹々のうちに親睦を深めました。最後に在学応援団幹部の指導による学生歌の大斉唱、エールをもってお開きとなりました。今年度は関西支部としての会合は行いませんでしたが、青葉工業会近畿支部祝賀準備会の方々のご尽力により多数の関西地区電気情報系OBの皆様がこの祝賀会に出席され、また運営にも参画されました。感謝申し上げます。

## 追 悼

### 喜安善市先生を偲んで

電気通信大学 教授 三 木 哲 也

喜安善市先生は2006年12月7日に逝去されました。お生まれが1915年12月11日で享年90歳、4日後には91歳になるところでした。謹んで哀悼の意を表します。

先生は松山高校から東北帝国大学工学部に進まれ、渡辺寧先生、八木秀次先生などの薫陶を受け1939年3月に電気工学科を卒業されました。ただちに逓信省電気試験所（後に電電公社電気通信研究所）に入所され、回路網、帰還増幅器、PCM、電子交換、電子計算機、情報理論など多岐にわたる研究に取り組みられました。特に、若い頃に着想されたPCMの研究では1954年に24通路路7ビット方式を実証、1955年にパラメトロンを基本素子とする電子交換のモデル実験、我が国初のパラメトロン計算機MUSASINO-1を研究開発され1957年3月に稼働させるなど、数々の成果を挙げられました。

1959年8月に電電公社電気通信研究所次長に就任された後、1962年4月には東北大学電気通信研究所教授に迎えられました。東北大では通研と工学部通信工学科を併任され、それぞれ小野寺大先生および斎藤伸自先生と講座を持たれました。回路網理論、アダマール行列、アクティブ線路、PCM通信方式の研究を進められると共に、超伝導、ジョセフソン素子、磁性薄膜、光ファイバーなどの研究を幅広く指導され、東北大の通信や電子計算機分野の基礎を強化されました。しかし、1968年4月には東北大を退職され、1978年まで岩崎通信機常務取締役およびティアック顧問の任に就かれ、1977年から1991年までは足利工業大学教授として勤められました。

先生は、このように情報通信の源流と言うに相応しい数々の研究を手がけられ、また多くの人材育成に尽力され、多大な業績を挙げられました。独創性ある国産技術の育成に努力されたことでも卓越しておられました。特に、日本発のパラメトロンに着目して電子計算機や電子交換機の先駆的研究を進められたことは、産業界に大きな勅激を与えたものと思われま。これらの業績に対して、電子情報通信学会功績賞、情報処理学会25周年記念特別功績賞をはじめ、紫授褒章、通商産業大臣賞、大川賞、C&C賞など多くの賞を受賞されています。



先生の学生や若い研究者に対する指導は、真剣そのもので厳しいことで有名でした。学会などの発表会場ではいつも前列におられて、迫力ある質問や意見を矢継ぎ早に発せられていたお姿が目につかびます。また、先生は大変博学であられ、東北大の研究室関係者の集まりである喜安会では、蘊蓄のあるお話しや我々の近況へのコメントから、実に多くの教えを得ました。このような先生からの直接、間接の刺激が、学界・産業界に与えた影響も計り知れないと思います。

先生は、お持ちの資料を大学に寄贈されることをご生前から希望しておられ、石巻専修大学に移られた丸岡章先生、史料館の永田英明先生など関係者のご尽力によって、貴重な書籍や研究資料などが東北大学史料館に収められましたことを終わりに記しておきます。

謹んで喜安善市先生のご冥福をお祈り申し上げます。

### 眞野國男先生を偲んで

東北大学 名誉教授 高 木 相

眞野國夫先生は平成19年4月25日に96才の生涯を閉じられました。私は昭和30年（1955）から昭和49年（1974）まで20年に亘ってご薫陶賜りました。ここに眞

野先生のご冥福を祈るとともに、在りし日を偲びながら、拙稿を献げる次第です。

眞野先生は成城高等学校から本学に進まれ昭和9年3月工学部電気工学科を卒業されました。その後昭和10年1月現役兵として飛行第一連隊に入隊、11年1月現役満期除隊後、米沢高等工業学校講師となられました。12年1月には在郷進級され、航空少尉となられていま